

ケ ン

松浦敬親

①木の実落つ音もカ行のコツンかな 八木健

この木の実は何だろう？ コツンと堅い音だから、団栗や椎の実の類が連想される。では、何処に落ちたのだろうか？ コツンだから、板庇か石段などが思い浮かぶ。

では、カ行のカツンならどうだろう？ コツンよりも勢いがあり、かなり高い所から、瓦葺きか銅板葺きの屋根に落ちた感じだ。勿論、板庇や石段などでもかまわない。

では、カ行のキンならどうだろう？ キツンという擬音語はないので、キンとした。ツを取るとコツンはコン、カツンはカンで、やや軽くなる。濁点を入れると、コツンはゴツン、カツンはガツンで、重さと強さが出る。キンの場合は金属音なので、飛切り石頭の団栗か椎の実が、刃物や陶磁器、あるいはガラス器の上に落ちた感じだ。

では、カ行のクツンならどうだろう？ こんな擬音語は聞いたこともないだろうが、成立する。苔や朽葉、雨の日の落葉の上などに落ちれば、こういうくぐもった音がするからだ。

②叱られてくつんくつんと木の実雨 敬親

今一つだが、うまく使えばよい擬音語になりそうだ。挑戦してほしい。

---

では、カ行のケツンやケンならどうだろう？ケツンは擬態語になりそうだし、ケンも雉子の鳴き声に使われるが、物がぶつかる音としては、どちらも苦しい。しかし、作者の名を考えている内に、落とし所が見えて来た。

③木の実落つケンの頭にコツンかな (改作)

恐らく、こう考えた人も居るだろう。しかし、場所も音も違う。

④木の実落つ音もカ行のケンかな (改作)

やはり、①のこの形から出発したい。勿論、ケンと音を立てるのは、飛び切り石頭の団栗か椎の実だ。それを八木健氏の頭に落しても、ケンの音は出ない。頭が柔らかいからだ。特選句や秀逸句のコメントを読めば、それがわかる。だから、他のケンを探すことにした。

こう言うと、他の人物の頭（例は割愛）を考えた人も居るだろう。しかし、私は「カ行の県」を考えた。幾つかあるが、最終的には、次句の県が一番よいと判断した。

⑤木の実落つ音もカ行の鹿児島県 (改作)

ここなら椎檜類が多く、木の実と「鹿」から、秋の牡鹿（妻恋う鹿）が連想される。そして、その角に椎の実や団栗を落して、カ行の音や驚きを楽しむことができる。

しかし、八木健氏は愛媛県に住んでいる。愛媛県は四国の県だ。四国に

はカ行の県が二つある。香川県と高知県だ。それで閃いた。

⑥木の実落つ音もカ行の寒霞溪 (治定)

寒霞溪（かんかけい）は香川県の小豆島にあり、紅葉で有名だ。小豆島は『二十四の瞳』の舞台だし、カ行の音で落ちて来た木の実をたくさん拾えそう。タケシ君もケンちゃんも、目を丸くして喜ぶことだろう。だから、治定（決定）とした。めでたし、めでたし。